

12 コンニャク低コスト栽培の実証 ～ 耕畜連携による堆肥利用と輪作でのコスト低減～

情報提供：吾妻農業事務所普及指導課

活動の背景

吾妻のコンニャクは、東部地域の基幹作物として517ha栽培されています。

しかし、植付前の4月から実施されたLDC無税無枠措置やWTO農業交渉の再開、および、土壌くん蒸剤・肥料等の生産資材高騰や高齢化等により、コンニャク生産環境は厳しさを増し、農家の生産意欲低下が懸念されています。

活動の経過

コンニャクは地域の基幹作物であることから普及指導課では、JAあがつま・JAあがつま蒟蒻生産部会と連携を密にして、国の特定農産物産地構造改革対策事業を利用した契約栽培の推進、また県単のこんにゃく経営安定対策事業の積極的活用を図り、経営の安定対策を推進しています。

また、栽培技術面においては、より一層のコスト低減をねらいとして、コンニャク栽培で経費の大部分を占める薬剤費と肥料費の低減を進めるため、緑肥作物すき込み後の土壌くん蒸剤削減実証ほ、畜産農家の堆肥を利用した安定栽培実証ほを東吾妻町と中之条町の2カ所に設置しました。

なお、堆肥施用量については、畜産試験場で開発した「堆肥施用量計算ソフト」を活用して施肥量を算出しました。

活動の成果

7月及び9月実証ほを利用した現地研修会を開催し、延べ80名の参加があり、緑肥作物すき込み後の根腐病の抑制効果や堆肥の利用による化学肥料削減効果を確認しました。

また、実証圃の試験結果では、堆肥の肥料成分も化成同様に効果が確認され、安定栽培が可能であることが明らかとなりました。

さらに、堆肥施用量計算ソフトを活用することで、吾妻地域のコンニャクにおいても、堆肥の肥効計算できるものと考えています。



【堆肥を利用した栽培実証ほ】



【緑肥作物後の薬剤低減実証ほ】

技術のポイント

緑肥輪作の導入により根腐病の効果が認められ、土壌くん蒸剤等の資材が削減できるとともに、化成肥料代替えとしての堆肥利用により肥料費の低減が可能となり、生産コスト低減を図ることができます。しかし、畜種や堆肥の腐熟度により肥料成分が異なりますので、堆肥を施用する前に成分等を確認することが重要です。